

漢字で読み取ることばの意味

二年生の教科書に、「れっ車、はっ車、はくせん」ということばが出てきます。ふつうの学校では、これをどう教えていくか、考えてみましょう。

かな書きされたこれらのことばは、教えてやらなくても、声に出して読むことはできるでしょう。しかし、意味はわかりませんから、教えてやらなければなりません。そこで、教えてやるわけですが、「れっ車」と「はっ車」では、字形も読み方もたがいに似ていて、どちらがどうと区別することがたいへんにむずかしい。第一、意味を理解することがむずかしいし、覚えにくいので、「れっ車」を「はっ車」とまちがえたり、「はっ車」を「れっ車」とまちがえたりすることがあるほどです。

ところが、わたしの学級では、「列車、発車、白線」という形で習います。子どもたちは、この字を見ると、

「**列**は、一列二列の列だな。ならんでいる車のことかな。『れ**っ**しゃ』と読むのかな」

というように、自分ひとりの力で、意味や読み方を考えます。だから、「れ**っ**しゃ」ではなく、「れっしゃ」と読むのだとだけ教えてやれば、それで済むのです。

「はくせん」と「白線」とどちらがやさしい

「はくせん」では、読めても意味はわかりません。そればかりか、それが、「白い線」であることは、教えてやってもなかなかわかるものではありません。

ところが、「白線」では、子どもたちは、「しろせん」と読んで、自分の力で、意味を知ります。そこで、わたしは、

「しろい線のことを『ハクセン』というんだ。白は、『ハク』ともいうんだよ」

と教えてやりますと、

「先生、ぼくわかったよ。運動会の紅白玉入れの『ハク』がそうでしょ」

というのです。

このように、漢字で指導していきますと、教えてやらなくても、意味を正しく知ることができ、そのうえ、ことばを早く覚えて、早く使えるようになります。そして、なによりも価値のあることは、子どもたちが、「自分で考える」という態度を養ってくれることだ、とわたしは思っています。